

いちれん たくしやう 一蓮托生

「俺とお前は一蓮托生・・・」

どこかで聞いたようなセリフです

が、さて、皆さんはどのような場面が浮かびましたか？強面の男が脅迫する場面、窮地に追い込まれた男女の場面・・・
いかがでしょうか。

現代では、一蓮托生は道連れ・共犯・運命共同という意味で使われます。善悪関係なく同じ運命を辿ると。ところが、本来はそのような意味ではなかったのです。

一蓮托生を分解してみると、

「一つの蓮」・・・極楽浄土の蓮の花

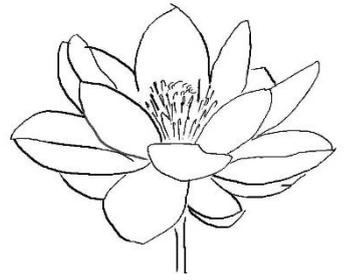
「托」・・・抛り所

「生」・・・往生する

同じ極楽浄土に生まれることを抛り所として生きると、



希望に満ちた意味で、本来仏教では使われていたのです。蓮はきれいな場所では咲きません。濁った泥の中にこそ、根を張り花を咲かせます。この濁った迷いの中だからこそ、阿弥陀如来は念仏の根を張られたのです。



日本シリーズ
才七戦
見たかったなあ
名作耳

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

いつかつ 一喝

「かーつつ！」
日曜の朝の張さんの声。

喝は、主に臨済宗の禅において、師匠が弟子を叱咤する際に用いられます。

この喝には四種類あるそうです。

- 一、スパッと迷いを一刀両断するような喝
- 二、今にも獲物に飛びかかるうとする獅子が吼えるような喝
- 三、相手の力量を探る喝
- 四、これらの働きをしない喝（意識しない喝とでも申しましようか、禅は言葉では言い表せないのです、文字化することが難しいのです）

では、曹洞宗はどうなのかといいますと、臨済宗ほど、喝を入れることを重要視しません。抜き身を放つような喝ではなく、鞘に納めたまま悟らせることに重心を置きます。

喝を入れるのにも様々です。これは、アプローチ方法はいくらかもあるという事なのでしよう。近頃は、ひとつ何かあれば、一斉攻撃の時代です。別の手立てを考えてみませんか。

